

# 達成不可能に思える高い目標が上からきたらどうするか

「組織変更や環境の変化の中で、外部要因により、達成不可能に思える高い目標が上から降りてくることも、時には(また、しばしば)あるもの。それを不可能と決めつけて、抵抗しても組織人として、居心地が悪いもの。では、その達成不可能と思える高い目標を達成する方法は本当にないのでしょうか？」(講師メッセージより)

## 《ワークショップレポート》

今回は、埼玉県環境部の企画部門の職員の方から課題事例をいただきました。

内容は、「SDGs(持続可能な開発目標)に関連する施策として、環境を配慮する県内中小企業を増やす取組を検討したところ、上司から『県が取組を進めることで、ムーブメントになるんだな?』と、高い目標を設定され、事業の難易度がUPしてしまった。「取組の方向性についてぼんやりとしたイメージはあるものの、具体的かつ効果的なアクションが見えずに、足踏み状態。」とのこと。

ワークショップでは、まず、あいまいな目標を明確にしました。質問をしながら情報やイメージを整理すると、上記の達成不可能に思える高い目標から、明確でより高い次元の目標「埼玉県の中小企業が選ばれ勝ち残る企業になるため、すべての中小企業が環境配慮の取組を行う」が見えてきました。

さて、この目標を達成するにはどうしたら良いのでしょうか。今回は「障害は何ですか?」でした。「障害」、つまり「できない理由」を言う、いわゆる抵抗勢力に対して、多くの人は“不平不満をつべこべ言うな”と対立してしまうものですが、実は“不平不満をつべこべ言う”ことが問題解決の近道なのだそう。

障害を挙げたら、その障害を活用して中間目標、行動を考えます。その結果、今すぐに取り掛かれそうで、かつ目標を達成できる解決策がまとまりました。

## 《今回の学び》

達成不可能に思える課題に対し、ぼんやりとした方向性を明確にする作業の冒頭『直感概ね正しい、ただ、それを論理的に説明するのが難しい』ということが、個人的には興味深いものでした。

なぜなら、直感はその思いつきに過ぎず論理的であることとは正反対だと思いこんでいたからです。

きっと、今回のセミナーのように「なぜそう思ったのですか」を繰り返していけば、直感から本質を見つけ、論理的に相手に伝えることができるようになるだろうという希望を持つことができました。そうすることで、よりお互いに理解し合える関係を築けるのではないのでしょうか。

## 《事例発表》

今回も、TOCの手法を行政の現場で実践している方に事例を発表していただきました!!

- ① 「無断伐採を無くせ。地域が一体となって取り組む合法伐採木材流通の取組」林野庁
- ② 「地域の力を引き出す職員をどう育成するか〜ミズベリング・プロジェクト普及の取組み〜」国土交通省



ワークショップの様子

## 講師・ファシリテーター 岸良裕司



株式会社Goldratt Japan CEO。  
全体最適のマネジメントサイエンスであるTOC(Theory Of Constraint:制約理論)をあらゆる産業界、行政改革で実践。最先端のTOC知識体系の、「楽しく」、「わかりやすく」、「実践的」な講義と、参加者をワークに集中させるファシリテーションから、たくさんの学びが得られると大好評である。

## 全体最適の行政マネジメント研究会について

・ 全体最適のマネジメント理論TOC(制約理論)を活用し、「お金を使わず 知恵を使って」を合言葉に、行政、民間の参加者が垣根を越えて、日本をよくするために知恵を出し合い、問題解決に取り組むNPO法人。そのセミナーは、身近な行政課題を題材に、TOCを実践的に学べる場となっている。

・ 次回のセミナーは、12月8日(日)に、東京で開催します(参加費無料)。当会のWEBサイトかQRコードからお申込みください。

